

## 平成15年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

観光客数〔推計実人数〕:	45,010千人	(対前年比 +4.2%)
日帰り:	40,541千人	(対前年比 +5.4%)
宿泊:	4,469千人	(対前年比 5.5%)
観光消費額〔推計〕:	260,541百万円	(対前年比 7.2%)
日帰り:	144,046百万円	(対前年比 4.4%)
宿泊:	116,496百万円	(対前年比 10.4%)

### 1 観光客数

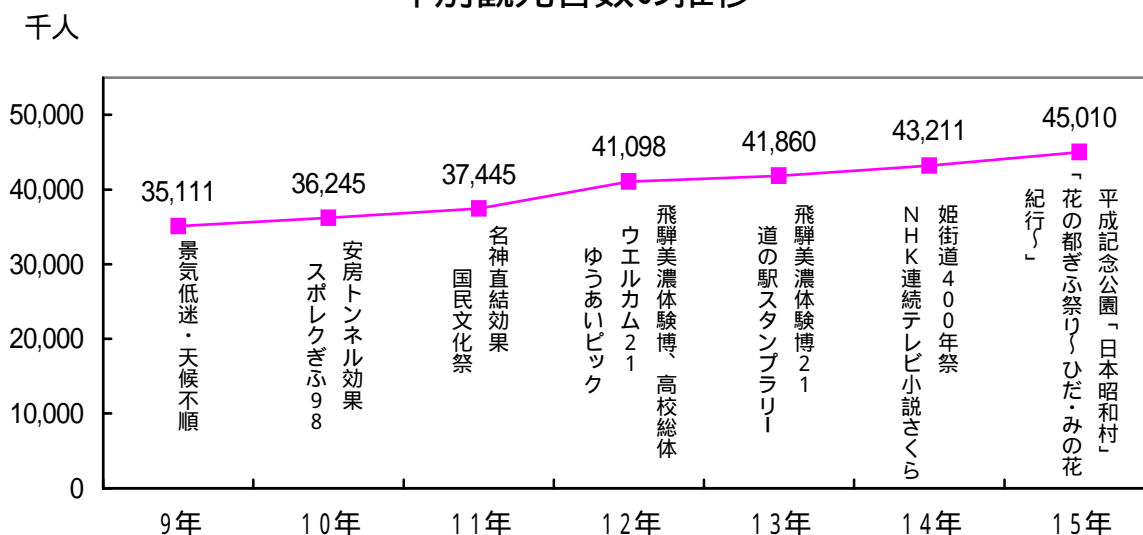
#### 県計の動向

観光客数については、「平成記念公園『日本昭和村』」など新規オープン施設の効果や、「花」をテーマに4月から県内全域で開催した「花の都ぎふ祭り～ひだ・みの花紀行～」(～H17.3まで)により、県全体として1,799千人増加しており、年々緩やかな伸びを示している。

また、宿泊客数については、県内宿泊客の半数以上を占める飛騨圏域をはじめ、県内各地で減少したため、前年に比べ県全体で261千人減少した。

- ・新規オープン施設の効果...主な新規オープン施設には、「平成記念公園『日本昭和村』」(美濃加茂市)、「池田温泉新館」(池田町)、「セラミックパークMINO」および「岐阜県現代陶芸美術館」(多治見市)、「そばの里荘川」(荘川村)、「市之倉さかづき美術館」(多治見市)があった。中でも、「平成記念公園『日本昭和村』」は4月のオープン以来1,331千人の観光客を集め、大きな観光拠点となった。
- ・「花の都ぎふ祭り～ひだ・みの花紀行～」効果...「花華コンサート」、「花街道ウォーキング」、「花市華座」をはじめとして県内全域で年間711件のイベントを開催した。また各種コンテストの実施や、花の都ぎふ祭りボランティアの組織化により、地域の魅力の再認識が図られた。

### 年別観光客数の推移

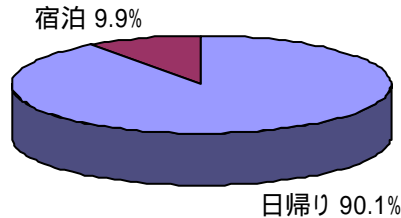


( 1 ) 日帰り・宿泊別観光客数

平成15年の観光客数は45,010千人。

これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は40,541千人、宿泊客は4,469千人と日帰り客が全体の90.1%を占めており、昨年よりも日帰り客の割合が1.0ポイント増加した(図1、表-1)。圏域別に見ると、西濃圏域が日帰り客の割合が最も多く(構成比98.1%)、岐阜・中濃・東濃についても日帰り客が9割以上を占める。一方で飛騨圏域は、日帰り客64.9%、宿泊客35.1%の構成比となっている。

図1

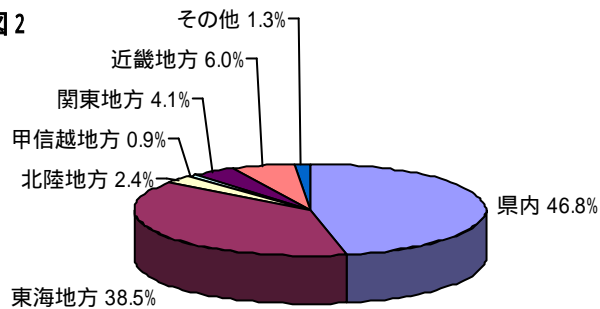


( 2 ) 居住地別観光客数

居住地別にみると、県内客は21,081千人(構成比46.8%)、県外客は23,929千人(構成比53.2%)で、飛騨圏域は特に県外客の割合が76.3%と高い。

県全体では、県外客のうち7割以上が東海地方からの観光客であり、以下近畿地方、関東地方と続いている。東海地方からの観光客の割合が特に多いのは、西濃圏域および東濃圏域である(図2、表-2)。

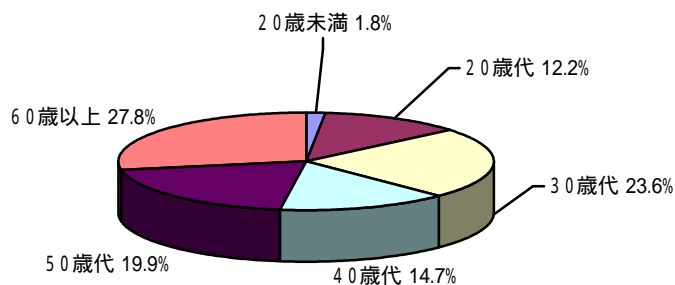
図2



( 3 ) 男女別・年齢別観光客数

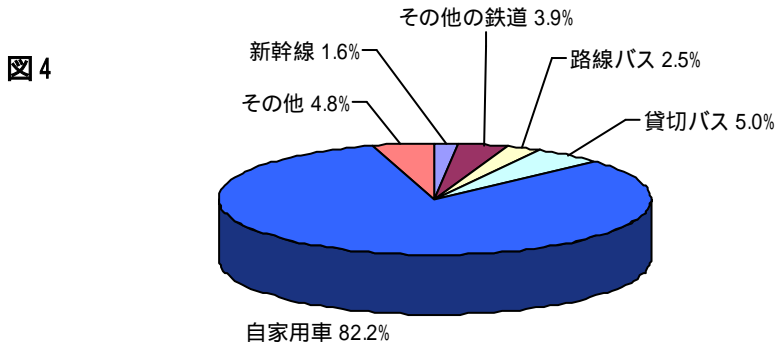
男女別で見ると、男性23,220千人(構成比51.6%)、女性21,790千人(構成比48.4%)と男性が若干多い。年齢別では、60歳以上が最も多く、以下30歳代、50歳代と続いている(図3、表-3)。

図3



(4) 利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上を占めており、近年大きな変化は見られない(図4、表-4)。一方で、飛騨圏域は自家用車以外の鉄道やバスの利用が33.0%ある。



(5) 同行者別観光客数

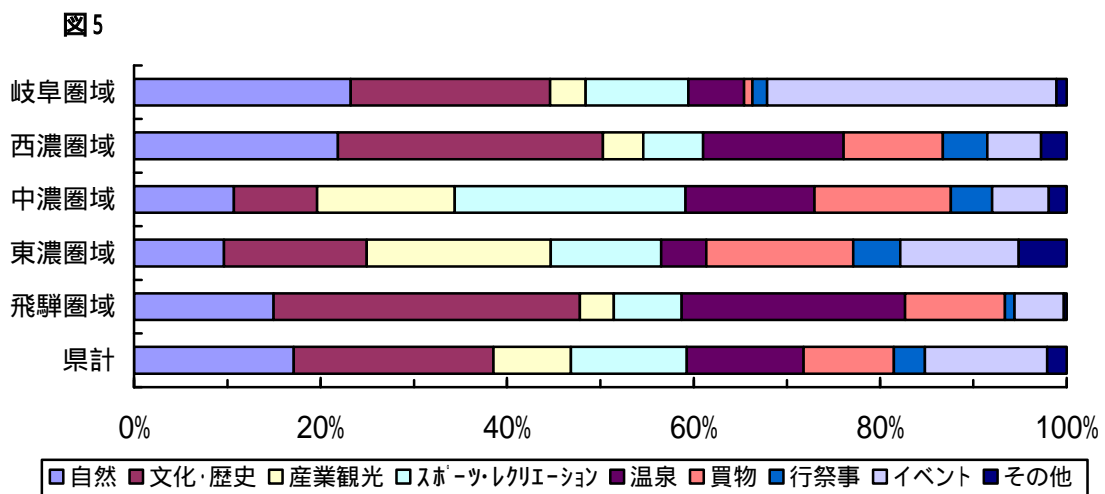
同行者人数別に見ると、「2~3人」「4~5人」が全体の約8割を占めており、少人数の観光形態の傾向に変化はない(表-5)。

同行者別に見ると、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」「自分ひとり」と続いており、「団体旅行」の割合は低い。ただし、飛騨圏域では旅行業者の募集等による「団体旅行」が他圏域に比べ高く15.2%を占める(表-6)。

(6) 観光地分類別観光客数

観光地分類別にみると、「文化・歴史」と「自然」で全体の4割近くを占め、以下「イベント」「温泉」「スポーツ・レクリエーション」「買い物」「産業観光」「行祭事」「その他」と続く。

圏域別で見ると、岐阜圏域は「イベント」、西濃圏域は「文化・歴史」、中濃圏域は「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域は「産業観光」、飛騨圏域は「文化・歴史」や「温泉」が多い(図5、表-7)。



## 外国人宿泊客数の動向

外国人の宿泊客数は、上半期は SARS、イラク戦争の影響等により減少したものの、官民あがての外客誘致の取り組みの成果もあり、前年を 3.1% 上回る 77,180 人(対前年 2,295 人増)となり、平成 12 年以降連続して増加している(表 - 11、12)。

## 圏域の動向

< 観光客実人数(推計) >

(単位:千人、%)

	日帰り客数	宿泊客数	観光客数(合計)	対前年比
岐阜圏域	10,747	786	11,533	0.7
西濃圏域	10,660	206	10,867	0.6
中濃圏域	9,242	520	9,762	+20.0
東濃圏域	5,332	490	5,821	1.0
飛騨圏域	4,561	2,466	7,027	+5.6
合計	40,541	4,469	45,010	+4.2

各圏域および県計の観光客数は、ともに実人数(1人の観光客が圏域内または県内の複数の観光地点を訪れても、圏域内または県内で2泊以上滞在しても、観光客、宿泊客はそれぞれ1人と数える。)を推計したものである。

$$(\text{観光客実人数}) = (\text{観光客延べ人数}) / (\text{平均訪問地点数(単位:箇所)})$$

- ・岐阜圏域... 昨年に比べやや減少した。「花の都ぎふ祭り～ひだ・みの花紀行～」関連イベントの効果で増加があったものの、オープン5年目を迎えた「河川環境楽園」(川島町)等既存の観光地点で減少した。宿泊客数については、37千人減少した。  
また岐阜圏域は、他圏域と比べると、観光地分類別の「イベント」の割合が3割以上と高いのが特徴である(図5、表-7)。
- ・西濃圏域... 昨年に比べやや減少した。「伊吹山ドライブウェイ」(関ヶ原町)「チューリップ祭」(海津町)「大垣まつり」(大垣市)が天候に恵まれず減少した。一方で3月にオープンした「池田温泉新館」(池田町)をはじめ、「水晶の湯」(南濃町)「四季のふるさと養老」(養老町)等日帰り温泉施設は好調であった。宿泊客数は、26千人減少した。  
また他圏域と比べると、日帰り客の占める割合が最も多く(98.1%)(表-1)居住地別では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高いことが特徴である(表-2)。
- ・中濃圏域... 圏域全体で1,626千人増加した。観光地点別に見ると、4月にオープンした「平成記念公園『日本昭和村』」(美濃加茂市)が人気を集めた。ただ一方で、圏域内のスキー場は全体として246千人減少した。これは11月および12月の積雪が、前年に比べ極端に少なかったことによる。宿泊客数については、29千人減少した。  
また他圏域と比べると、観光地分類別の「スポーツ・レクリエーション」の割合が高いのが特徴である(図5、表-7)。
- ・東濃圏域... 昨年に比べやや減少した。昨年大きく増加した「姫街道400年祭」のイベント効果の反動で減少した。一方「セラミックパークMINO」および「岐阜県現代陶芸美術館」(以上多治見市)は、年間通して297千人の入込客があった。宿泊客数については、2千人増加した。  
また他圏域と比べると、居住地別では、県外客のうち東海地方からの割合が特に高く(表-2)観光地分類別の「産業観光」が多いのが特徴である(図5、表-7)。
- ・飛騨圏域... 圏域全体で376千人増加した。観光地点別に見ると、新規オープン施設「そばの里荘川」、「そば処心打亭」(以上荘川村)の効果や、「野麦峠」(高根村)「白山スーパー林道」(白川村)の増加があった。一方で、5月からマイカー乗入が禁止された「乗鞍岳」(丹生川村)では減少した。宿泊客数については、上宝村、高山市、旧下呂町などを中心に172千人減少した。  
また他圏域と比べると、観光客数における宿泊客の内訳が3割以上と多く(県全体では約1割)(表-1)県外客の内訳も7割以上と多い(県全体では約5割)(表-2)といった特徴があり、自家用車以外の鉄道・バスの利用(表-4)や、旅行業者の募集による団体旅行の割合も高い(表-6)。

<参考：圏域別延べ宿泊客数の年別推移>

(単位：千人)

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
岐阜圏域	1,233	1,270	1,180	1,109	1,046
西濃圏域	352	371	344	318	322
中濃圏域	799	757	806	796	760
東濃圏域	685	599	551	599	633
飛騨圏域	4,259	4,167	4,092	4,294	3,970
県計	7,327	7,164	6,973	7,116	6,730

表1-1(延べ宿泊客数)を年別にまとめたものである。1人の宿泊客が圏域内または県内の2箇所宿泊する場合、圏域内または県内で2連泊する場合、宿泊客はそれぞれ2人と数える。

## 2 観光消費額

平成15年の観光消費額の総額は260,541百万円(対前年20,155百万円減、7.2%減)で、そのうち日帰り客分は144,046百万円(対前年6,599百万円減、4.4%減)、宿泊客分は116,496百万円(対前年13,556百万円減、10.4%減)であった。これを1人当たりの平均消費額でみると、日帰り客は3,553円(対前年9.7%減)、宿泊客は26,070円(対前年4.9%減)であり、宿泊客における観光消費額の大幅な減少は、宿泊客数の減少に加えて、1人当たりの平均消費額の減少が重なったためといえる。

## 3 経済波及効果(推計)

平成15年の生産誘発額は369,087百万円(対前年28,509百万円減、7.2%減)で、就業誘発効果は40,850人(対前年3,262人減、7.4%減)となった。

<参考> 可児市の製造品出荷額等 367,122百万円(H13 県工業統計調査)  
瑞浪市の人口 42,453人(H14 岐阜県人口動態統計調査)

## 4 「道の駅」の観光客数

平成15年末現在、県内「道の駅」は37ヶ所あり、うち観光客数(利用者数)を把握している「道の駅」は26ヶ所であった。これら26ヶ所の観光客数の合計は、6,609千人であった。

前年と比較すると、26ヶ所中増加18ヶ所、減少6ヶ所、新設2ヶ所であり、新設を除く24ヶ所の利用者数では、340千人増(5.5%増)であった。増加の理由としては、「道の駅スタンプラリー」による客の定着に加え、農産品や特産品の直売、温泉や体験施設等による新たな魅力付けが挙げられる。

## 【参考】調査の概要

本調査は、社団法人日本観光協会の「全国観光統計基準」に基づく。

### 1. 調査期間

平成15年1月1日から平成15年12月31日まで

### 2. 調査対象

#### (1) 観光地点

観光地点の定義および分類

年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

- ただし、上記の数を満たさない観光地点については、観光地点名を「その他」として掲載
- ・「自然」...優れた自然環境であり、管理者が常駐している景勝地(山岳、高原、湖沼、河川景観、その他鍾乳洞など特殊地形)
  - ・「文化・歴史」...文化財や歴史的建造物を有し、管理者が常駐している施設(城郭、神社・仏閣、庭園、町並み、旧街道、史跡、博物館、資料館、美術館、動植物園、水族館、その他橋、駅、ビル、ダムなど建造物)
  - ・「産業観光」...広範囲な敷地を有し、管理者が常駐している工場、農園、市場、牧場、伝統工芸等の産業拠点(観光農林業、観光牧場、観光漁業、伝統工芸、その他の産業観光施設)
  - ・「スポーツ・レクリエーション」...管理者が常駐している施設。  
ただし、小規模の施設、地元利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象として取り扱っているものに限定(ゴルフ場、スキー場、テニス場、アイススケート場、サイクリング場、ハイキングコース、キャンプ場、自然歩道・自然研究路、大規模公園、レジャーランド・テーマパーク、複合的スポーツリゾート施設、その他スポーツ・レクリエーション施設)
  - ・「温泉」...温泉あるいは鉱泉の湧出する地域であり、管理者が常駐している施設、地域(温泉、その他入浴施設)
  - ・「買物」...管理者が常駐している施設。  
ただし、小規模の施設、地元の利用者が大半を占める施設は除外し、観光利用の対象になっているものに限定(道の駅、複合的ショッピング施設、ショッピング街、朝市・市場、郷土料理店・レストラン)
  - ・「行祭事」...地域住民の生活において伝統と慣行により継承されてきた、定期的に行われる大規模な行祭事(行祭事、郷土芸能、地域風俗)
  - ・「イベント」...常設もしくは特設の会場において、一定の成果を期待して人や金を集めることを目的として行われる大規模なイベント(博覧会、展示会、見本市、コンベンション、国体、花火大会)

#### (2) 宿泊施設

宿泊施設の定義

管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊に必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設。

ただし、個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル等は除外。

### 3. 調査実施機関

県、市町村(平成15年末時点の市町村の別による)